

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3017002400		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名	グループホームガーデンライフ		
所在地	海南市船尾265-8		
自己評価作成日	令和6年3月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=3071600278-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	令和6年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『のんびり・ゆっくり〇(まあるく)ゆこう』をモットーに住み慣れた地域の中で、心穏やかに笑顔の絶えない事業所を目指しています。入居者様の残存機能を維持できるように日々ケアに努めています。コロナ対策で外出が出来ていませんでしたが、緩和されてきているので、今後外出・外食など外に出て行くことを企画中です。母体が医療法人であり病院や老健施設が併設しており24時間、医療との連携が確保されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であり、医療との連携が高い次元で保持されている。介護事業も病院周辺で複数運営されており、こちらの連携も活発である。理念である『のんびり・ゆっくり〇(まあるく)ゆこう』はスタッフ間に浸透しており、普段からの管理者やスタッフの努力と見識の高さが伺える。入居者からのアイデアを元にグループホーム玄関付近に漬物の糠床を設置されており、美味しい漬物を食べるために、入居者とスタッフが協力している。グループホームにスタッフの子どものおやつを持参して訪問することがあり、入居者への良い刺激になっている。介護計画作成のためのサービス担当者会議が3か月に1回の頻度で開催されており、きめ細かい対応がなされている。入居者とスタッフの温泉旅行に運営法人の補助金が支給されており、両者を大切にしている法人の姿勢が垣間見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	〇 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	〇 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	〇 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	〇 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	〇 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	〇 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	〇 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他に『のんびり・ゆっくり○(まあるく)ゆこう』を独自に掲げている。入居者様には住み慣れた地域の中で穏やかに安心して笑顔の絶えない日々を送って頂けるように努めている。	『のんびり・ゆっくり○(まあるく)ゆこう』は事業所理念を超えるほどの存在となっており、理念そのものとして異存がないほどである。また、スタッフ間にも周知されており、その通りの運営がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策でボランティアの先生方などの受け入れが出来ていなかったが今年から再開、来て頂ける事になった。入居者様の楽しみ事が増えて	屋上ガーデンの手入れ、押し花作成、中学生の総合学習の受け入れなど、ボランティア活動への関与は熱心である。そのメンバーは固定化されており、社協のボランティアセンターとの連携も活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、市主催での黒江地区での『徘徊模擬訓練』に参加。今後は『認知症サポーター養成講座』や『健康教室』など、市とも連携し事業所の事を知って頂ける機会を作りたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	短い時間であるが昨年の10月より再開し、市の担当の方や家族様に出席して頂いている。4月と10月はもう一つのグループホームとサ高住と合同で行い、お互いの情報交換の場にもなっている。	運営推進会議では、事故状況の報告、伝達研修などが行われている。コロナ禍以前は、入居者が参画してお茶出しなどが行われており、機会を見て復活することを目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、入居待機人数の情報や困難事例などの相談など行っている。	管理者が認知症サポーター養成講座の講師や、母体法人が請け負っている認知症カフェの運営主体として招請されており、地域の中でこのグループホームや管理者の専門性が高く評価されていることがよく分かる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	老健側の扉を開けており、入居者様・他部署のスタッフや老健に入所されている方が自由に入出入り出来る様にしている。やむを得ず施錠する時は施錠が身体拘束である事を職員は認識している。	身体拘束が高齢者虐待に該当することが高いレベルで理解されており、「鍵をかけない」ことへの日常的な努力を明確に感じ取ることができる。このグループホームでは非常に自然なこととなっており、この状態に疑問を持つ者は誰もいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様1人1人を尊重したケアを目指している。特に言葉遣いでは『スピーチロック』にまた、マスクをしているので『フェイスロック』にならないよう目元には特に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に研修に参加出来る機会がある。コロナ対策で参加出来ていなかったが、リモート研修や今後は会場へ出向いて行くようにしている。参加した職員が伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当時と変わらず文章と口頭で説明させて頂いている。介護報酬改定時には文章と口頭で説明し確認して頂いてから新たに契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当を設けている。家族様の来所時には入居者様の日々の様子を報告したり、コミュニケーションを積極的に行っている。また、意見や要望を出して頂ける雰囲気作りや環境作りに努めている。	入居者からの意見はあまりなく、また多くの家族が訪問するが、苦情や意見はほとんど聞かれない。管理者はそのことにあぐらをかくのではなく、「意見の言い方が分からないのでは」と常に寄り添う姿勢を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員ミーティングを行っている。朝の申し送りの時に情報の共有や意見交換、入居者様の気になる事を話し合う事もある。不参加の職員には伝達ノートを見てもらい見たらサインするようにしている。	会議の議事録はスタッフ全員が順番に作成し、参画への高い意識が見て取れる。事故の防止、入居者への声かけのあり方、環境整備、誤薬の防止などが積極的に議論されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得や業績人事考課により、時給値上げがある。また、準常勤や正職員への昇格などの制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナで研修や講習に参加出来ず、リモート研修を行っていたが今後は、リモート研修も続行し研修や講習に参加して行く予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年の10月より、地域ケア会議に参加している。情報交換や悩みや分からない事があれば連絡し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅やサービス事業所・入院先など直接お会いして、本人様の思いや考えを聞いています。事前にホームに足を運んで頂いたり、不安にならないように雰囲気作りや職員の顔を覚えて頂けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前には事業所の見学をして頂いている。入居後は家族様には近況報告や要望をお聞きしながらケアに活かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様・担当のケアマネジャーより話を聞き不見ようを見極め必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ傍に居てくれる、声を掛けてくれた、手を握ってくれる安心感、この人の声へ顔を見ると安心して笑顔が出るそういう関係性を今後も築いて行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払いに月1回は来所して頂く機会を設けている。必要に応じて電話での報告や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策で面会も出来ていなかったが緩和してきているので短い時間だが家族様や孫様・ご兄弟など居室で面会して頂いてる。	家族等の面会については、コロナ禍を経て、徐々に緩和してきており、現在ではかなり柔軟な対応がなされている。また、入居者の中には昔から馴染んだ美容室に行く方もあり、個別の対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の邪魔をしないように見守っているが、耳が遠くて聞こえにくく話が噛み合っていない時には職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に転居された方は、様子を見にその施設に出向いたり、電話などでの様子伺いなどを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後も日々の暮らしの中で思いを聴くように努めている。自分から思いを言えない時には職員がその人の思いを考えたり、家族様に意向をお聞きして本人様本位なのかどうかを見極める様に努めている。	漬物の糠床は入居者とスタッフが協力して維持している。また、スタッフから入居者に「何したい」や「何食べたい」を問う時に、スーパーの折込チラシを見たり、回想法を活用したアプローチを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後のアセスメントにより、本人様・家族様・担当ケアマネなどに情報を得ている。入居後も本人様や家族様にお聞きして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時の顔色や表情・仕草や話す言葉の内容から、体調の変化に気付いたり、入居者様の持っている力が発揮出来る様に、また現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナが緩和してきているので、以前3ヶ月に1度行っていたモニタリングを家族様・ケアマネ・担当スタッフを交えて行う予定をしている。	介護計画作成のためのサービス担当者会議が3か月に1回の頻度で開催されている。このことによりサービスの質が担保され、苦情がなくなったと管理者は実感している。「忙しいが頑張りたい」との決意が聞かれた。	非常に高頻度でサービス担当者会議が開催されているが、その記録が十分ではない面も見受けられた。入居者や家族への説明責任の観点からも、今後の記録の充実に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の生活記録に記入。3ヶ月に1度のモニタリングを始め、スタッフからの発信よりカンファレンスを行う時もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している病院の付き添いや、他の病院(整形外科・歯科・眼科・婦人科)などの付き添いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが緩和してきている中、今年からボランティアの先生方には来て頂いている。地域の体験学習は来年度より再開の予定		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設しているので24時間連携が確保されている。入居者様のほとんどの方の主治医が併設されている病院の医師である。月に1度訪問診療を1週間に1度看護師による訪問看護がある。	母体病院からの応援で非常に高質な医療連携が実践されており、入居者の健康管理に大きく貢献している。歯科は訪問診療である。管理者は「心配なのは婦人科の受診。入居者が混乱するのでは」としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院を始め、老健や透析室の看護師との協力体制が築けている。また、週に1度、透析室の看護師による訪問看護があり相談やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設している病院の地域連携室との連携が出来ている。情報交換など共有が出来ているため、入退院時の支援がスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『看取りの指針』について説明している。初めにある程度家族様の意向をお聞きしている。重度化や急変時など変化のある時には家族様と再度話し合っている。また、状態により医師に相談したり話し合いに入っている。	入居者の入居当初に『看取りの指針』にて説明を行い、他の書式も加えて、包括的な体裁をとっている。	『看取りの指針』は整備されているが、書面による同意の有無の確認ができなかった。また著作権への配慮も期待したい。書式全般に整備の充実が期待される部分が見られ、今後の改善が待たれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の変化にすぐに気づき対応できるように、災害時にも対応できるよう訓練を少しずつ行っている途中である。今後は防災委員会との連携を密にしていこうと努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の法人全体の消防訓練に今年も参加の予定である。自ホームでの訓練も今後力を入れて行き防災委員会との連携を図りたい。	法人全体の訓練への参加が活発に行われている。非常災害時のためにトランシーバーを購入し、備えに厚みを持たせている。水害や津波の際は屋上への垂直避難を想定しており、そのための訓練が行われている。	これからの対応として、市社会福祉協議会ボランティアセンターとの連携体制の構築が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の理解が難しくなっていく中、その人に合わせた声のトーンやゆっくりと分かりやすい言葉掛けを心掛けている。難聴の方には時にはジェスチャーを交える時もある。	非常に柔らかい声のかけ方や、笑顔の見せ方、介護の方法が取られており、『のんびり・ゆっくり○(まあるく)ゆこう』の理念の通りに実践が体现されている。そしてこのことに管理者が自信を抱いている様が見て取れた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二者択一で出来るだけ入居者様の意思で決めてもらうように支援している。また、その方の立場に立ち職員同士で話し合ったり家族様の協力を得ながら決める時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れや決め事がある。が、その日1日を楽しく過ごして頂くためにその日の状態に合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選べる方には、選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さりげなく声掛け、一緒に選んで着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーのチラシを見て献立や何が食べたいか、などさり気なく聞き食卓へ、入居者様の嚙下状態に合わせて普通食・あら刻み・刻み・ミキサー食と提供。病院の栄養士にも相談・アドバイスを頂く時もある。	入居者は野菜の皮を剥いたり、食材をこねたりして調理に参加している。コロナ禍以前は入居者とスタッフが一緒に食事を楽しんでいた。行事的な取り組みも大切にしており、食事に関する演出が功を奏している。	車いすに乗車したまま食事をしている入居者の姿が見られた。また、音の出ているテレビに背を向け食事している方も見受けられた。安全・安心な食事のために、改善を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分はチェック表で管理、食事やおやつ以外にも飲みたい時に飲んで頂いている。入浴後や10時頃に提供、水分補給に努めている。食欲不振には『食事』にとらわれず本人様の食べたい物を食べて頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には声掛けや見守りを行い、介助の方は職員が行っている。週2回洗浄剤で義歯を洗浄、噛み合わせが合わない時には訪問歯科医に連絡し治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で個々の排泄パターンを把握、自己にて行かれる方にはさりげなく様子伺いし困っている時には介助させて頂いている。夜間、PTイレを使用されている方も日中はトイレを使用介助させて頂いている。	入居者の羞恥心に配慮し、スタッフ間の申し送りは小声で行ったり、メモを活用するなど工夫している。便秘傾向の入居者が多く、冷たい牛乳やハチミツの摂取で対応するなど、きめ細かい工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便して頂きたいので、冷たい牛乳やヨーグルト、水分をたくさん取って頂くように努めている。食物繊維の多い食べ物を食事に取り入れる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の好きな時間に入浴して頂きたいのですが、曜日を決めて入浴して頂いている。また、少しでも楽しんで頂けるよう、季節での菖蒲湯やゆず風呂や温泉の素で温泉に行った気分楽しんで頂いている。	入浴はリラックスの機会と捉えている。夏場は入浴頻度を増やすといった配慮も高く評価できる。入居者全員とスタッフによる温泉旅行には、運営法人からの金銭的補助があり、こちらも素晴らしい実践である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の目安はありますが、起きたい時に起きて、寝たい時に寝て頂いている。入居者様の体調を見て休む事を勧める時もある。照明の明るさや布団の調整などにも気を配り、寒い時には床暖房や湯たんぽなど使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、内容や副作用の説明書は誰でも見れる場所にあり確認出来るようにしている。服薬時には『お薬確認シート』があり誤薬の予防に努めている。訪問診察時には入居者様の体調や様子を報告し投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知機能や身体能力が低下していく中、その人が得意だった事や好きだった事が1つでも出来る様に職員がサポートし楽しんで頂ける様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で戸外に今までは行けなかったが、緩和してきているので3月下旬頃に近くの公園に花見に行く予定。普段は気分転換を兼ねて屋上に日向ぼっこや洗濯干し、花壇の水やりをしている。	花見や温泉ツアーなど季節ごとの外出行事が活発に行われている。買い物、散歩、地域の地蔵参りなど日常的な外出は週に一回程度行われており、入居者一人当たり、月に一度程度の外出の機会が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っているだけで安心される方も多いですが『紛失』する事もあります。家族様には説明し理解と承諾を頂いている。コロナで買い物に行けなかったが、緩和してきているので日は未定であるが近いうちに再開する予定		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど家族様やボランティアの先生方宛てに送らせて頂いている。電話は希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時々、気分転換にリビングのテーブルの配置換えや席替えを行っている。季節を感じてもらいたいので、雛祭りや五月の節句、クリスマスなどの飾り付けをしている。各居室の表札の所には、月々の飾り付けを行い五感を刺激するように努めている。	廊下の飾りつけなどの掲示は、手の込んだ工夫がなされており、入居者への良い刺激となっている。リビングのレイアウトを時々変更して入居者の関係性に配慮したり、景色へのアプローチを変えてみたり、日当たりの考慮をしたりなどの工夫がみられる。	グループホームの構造上のあり方が大きいのが、いわゆる「死角」がほとんどない。入居者が他の入居者やスタッフから遊離して過ごせる場所が共用空間にはない状態は、入居者の心理的圧迫につながる可能性がある。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子や長椅子などを置き、好きな所で休んで頂いている。ちょっと1人になりたい時や洗濯物を畳んだする時に座ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使用していた物を依頼するがあまり無いよう予め事業所にあるタンスや棚など使用して頂いている。タンスの位置やベッドの高さなど本人様の動きやすい様に配置や調整を行っている。	茶碗、箸、家族などの好みの写真、腕時計、テレビなどの持ち込みは当たり前のように行われている。管理者は、「促しが強ければもっと色々なものを持ってきてもらえるかも」と考え始めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札、トイレには張り紙をして分かってもらえる様に努めている。		